

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200172		
法人名	アコオビジネスコンサルティング株式会社		
事業所名	グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田 (A・Bユニット共通)		
所在地	岡山県倉敷市三田124-1		
自己評価作成日	平成23年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200172&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

20代～60代と幅広い年齢層で構成された男女比5:5でバランスのとれた職員で明るく、活気のある、創意工夫を取り入れた事業所である。特に職員一人ひとりの個性を活かし、全体のスキル向上を計る年2回の「研究発表会」と週1回の職員が何でも話したり相談できる「気づき会議」を設置し、チームワークを大切にしている。利用者様一人ひとりの生活歴・性格・趣向・現状を把握し、「今日のこの時を思い存分生きる！」を大切に、散歩は日課・外出・外食・イベントなど特に力を入れ、その人らしい生活を送っていただけるようなケアを行っています。ハード面として「心の癒しと長寿を願う」という代表者の思いを十分取り入れた造りとしています。京都をイメージした庭園・水琴窟、延命を願う延命地蔵を設置、ゆったりとした空間で疲れを癒すため光明石温泉の設備を完備。医療面では看護師を3名配置し急変等早期発見及び迅速な対応を行っている。また、家族とのコミュニケーションを図る為家族会を設立。地域コミュニティの一環としてAEDを導入設置しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

他の施設ではしていないことに挑戦するという代表や管理者の強い思いを職員たちも理解して、重度化した利用者も最後まで人間らしい暮らしができるようケアし、全員での宿泊旅行を計画したりホテルディナーに出かけたりしている。この難しい挑戦のために、職員の資質向上を最も重視し、委員会研究発表会や気づき会議を行い、また各種会議を通して方針を徹底させている。女性ばかりの2階ユニットでは、洗濯物をたたんだり塗り絵をしながらおしゃべりしたり職員と歌ったりしてにぎやかに過ごしている。重度の人や男性の多い1階では、男性職員の細やかな気遣いを受けながらゆったりと過ごしている。どちらのユニットでも、家族や地域との連携をしながら、利用者一人ひとりの望みを最大限に叶える努力を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目につく場所へ掲示し、理念を常に念頭に置き、意識向上に努めている。特に職場作り・環境作りを日々心掛け実践している。	1. 元気で明るい挨拶、2. 和やかで楽しい職場、3. 安全安心な介護。といった理念が掲げられており、理念を念頭に職場づくりや業務に当たっている。代表者や管理者の思いが、スタッフに定着しつつあるようである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会社及び代表者がこの地域に地盤があり、地域活動やお祭りなど積極的に参加している。施設行事に地域住民を招いたり、子供神輿は事業所内披露が順路になっているなど交流を深めている。	交流や協力のできる関係を築くために、設立当初から阿波踊りや回転寿司などの行事に地域の人を招いてきた。またホームの新聞を送り、運営推進会議にも参加してもらうなどして、少しずつ理解も深まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事へ地域の方やボランティアの方に参加いただき、認知症に対する理解を深め協力していただけるように努めている。また、地域の相談窓口としての準備をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の町内会長、民生委員、ボランティア、利用者の家族、市職員・議員、地域包括センター、愛育委員、他事業所の職員の方々に参加いただき、現況報告・意見や情報交換の発言内容を全て記録して今後のサービス向上に努めている。	2ヶ月に1度、定例化しており、他ホームに比べ、参加人数も多い。記録も非常に細かく会議録が作成されている。運営推進会議をとおして、地域との繋がりが、他施設との繋がりが深められており、サービス向上に役立っている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	どんな小さな疑問でも連絡・相談を行い、疑問を即座に解決するようにしている。また運営推進会議を通して日常の報告やアドバイスを受けている。	運営推進会議に市介護保険課や包括支援センターの参加が必ずあり、日常的にも、何かあればすぐ行政へ連絡を取り、問い合わせを行う等、連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」に関する委員会・勉強会を毎月ユニット会議で開催して発表している。玄関の施錠については週1回開錠している。また他の施錠箇所についても減らしている。	委員会で身体拘束に関する学習を行い、発表により全員の理解を深めている。玄関の施錠に関しては、開錠に向けて努力しており、家族や地域とも話し合っている。利用者の状態に合わせ、安全重視で行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」に関する委員会・勉強会を毎月ユニット会議で開催して発表している。外部の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人の成年後見制度に関する専門家により必要に応じて勉強会などのを行い、知識の習得や活用できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、必要に応じて利用者の自宅に訪問し理解・納得してもらっている。新たに加わったものはその都度文章にし理解をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の理解を得て家族会を発足させた。開催日も家族に合わせ決定し定期的に会合を開き、意見交換を行っている。また要望受付箱を設置し、要望受付簿を大いに活用している。	家族が中心に活動している家族会を、ホーム行事と合わせて年3~4回開催している。その中で家族の要望等も聞くようにしている。職員の研究発表会に利用者も参加して意見を言ってもらおう等、主体性を持ってもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所担当者会議・ユニット会議・気付き会議・企画担当者会議や日頃の会話から情報を共有し、代表者や管理者と一緒に考え反映させている。	定期的会議の中で、様々な意見を言ってもらうようにし、また代表者や管理者の思いも職員に伝えるように心がけている。また懇親会も度々開いて職員の思いを聞き、職場での意思疎通が図れるようにしている。	理念の実現には、代表者から職員に思いを伝える一方、職員間での自主的な話し合いや情報交換による意思統一も必要と思う。職員間でより一層意思疎通を図ってもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員からの話を聞き、改善に努めている。 キャリアパス「将来の道標」を整備し、全職員へ内容の周知徹底を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に介護関連だけでなく、ビジネスマナーなどの研修にも参加させている。事業所ではチームを編成しテーマを考え年2回「グッとジョブ」研究発表会をしている。資格取得にも全面的バックアップを行っており殆どの職員はここで実践し、資格取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協会の研修会へ積極的に参加している。同業者との連絡や相談など交流を図れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には、利用者本人と面会する機会を持ち、その情報をカンファレンスを行い、事業所全体で共有している。また担当者は利用者一人に必ず一人決め、より細やかな配慮を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活歴や全体像を家族から聞き把握している。また環境や状態の変化があれば即座に対応し家族への連絡も行っている。どんな悩みや要望にも密に対応し、家族とのコミュニケーションを日頃から大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて本人や家族と何度かお話しする機会を設け、事業所でのサービス利用が適切であるかどうか、事業所内で十分協議し当デイサービス利用や他のサービスも視野に入れて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護という視点ではなく援助を心掛けて共に行い共に喜び合い、一緒に買い物に行ったり炊事を行うことでコミュニケーションを取っている。また人生の先輩として尊敬や敬意の念を忘れない関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の生活状況やホットニュースなどはすぐに家族へお知らせしている。また毎月一回家族へ担当職員や時には利用者本人が手紙を書き送っている。あくまでも当事業所は家族と利用者本人との橋渡しの援助を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ家財道具を部屋に設置するなど生活環境を変えないように配慮している。友達に電話をしたり、友達の来訪にも対応している。また馴染みの場所に同行しながらりが途切れないよう支援に努めている。	本人や家族の希望があれば、在宅時のかかりつけ医や歯科受診を行っている。自分で道順が言える利用者とは一緒に家に行ったり、お墓詣りに同行することもある。以前の生活を把握し、現在の介護に生かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの利用者同士と一緒に入浴したり、利用者のテーブルの配置などを考え、孤立しないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があればゆっくり話をしたり、一緒に娯楽を楽しんだりしている。また入院などにより退去になった場合、お見舞いに行ったり、定期的に連絡をとるなど最後まで関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントなどを把握した上で、本人の意思を尊重し、利用者の思いをしっかりと聞き出して、食べ物や入浴、外出、日中の過ごし方など利用者の希望に合わせて生活してもらうよう努めている。	思いや意向が十分に言える利用者ばかりではないので、出来るだけ、今までの生活歴や好きなことを把握することで、本人の意向に沿うよう心掛けている。	職員が思いを把握出来ている利用者について、その言葉や思いの表し方等の具体的生活記録があれば、個々の職員がより様々な角度から受け止めることができるのではと思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にあらゆる情報を、利用者の取り巻くすべての人から聞き、職員全員が把握できるように、細目にカンファレンス等開催して徹底するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を最大限に生かして、日々一人一人が有意義な生活が出来るように支援している。特に精神的な心の動きには十分注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人や家族の思いを十分聞いた上で、日々取り組む具体的な支援内容をユニット職員全員でモニタリングなどを行い、介護計画を基本3ヶ月に1回状況により半月に1回又は1ヶ月に1回見直しを行っている。	ケアプラン作成に当たっては、スタッフからモニタリングを行い、ケアマネも含めて職員全員がモニタリングした内容を総合的に盛り込み、ケアプランに反映させている。3か月ごとの見直しと、必要に応じての見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルには朝・日中・夜間の時間帯に分け記録している。職員の気づきや利用者の状態変化について気づき会議を実施。ユニットで日誌付けを実施し、職員間の確実な申し送りに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特性を活かして一人一人の意見をしっかりと聞き、柔軟な対応をしている。食事、入浴、睡眠、通院援助など利用者のニーズに対応している。また家族の方への食事提供なども声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に合わせた能力を十分発揮するため、買い物、散歩、ドライブ、地域活動に積極的に参加できるよう努めている。また前職喫茶店店主の利用者本人が開催する施設イベント「コーヒータム」では地域の人を招き楽しんでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合的な分野から本人に合った適切な医療を受けられるようかかりつけ医を確保している。提携医が定期的に往診をしている。個人のかかりつけ医への受診は基本的家族同行受診となっているが、不可能な時には職員が同行している。	家族や本人の希望を尊重しており、かかりつけ医への受診も継続している。家族が対応できない時には、ホームで対応しているとのことである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや看護関連記録管理が定着している。介護職員の中にも看護師を配置し、24時間対応で異常時に早期対応ができています。 看護師3人体制で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院医師と施設看護師が常に連絡を取り合い、介護職員にもわかりやすく報告・連絡を行っている。また職員が病院に訪問し病院関係者から状態の確認等実施している。提携医が協力的で小さな疑問でも迅速に対応してくれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時はもちろん重度化した場合に重度化や終末期の事業所の方針など利用者にとって一番良い迎え方ができる説明を十分行っている。 チームケアに取組み最後まで支援できるよう24時間対応してくれる医師との連携によりこれまでに看取りを経験している。	家族や本人の希望を把握しておき、多くの看取りを行って来ている。「最後まで自分たちが看たい」との思いで、利用者に接しており、希望があれば答えて行く方針で対応している。24時間対応の医師との連携もあり、それが行えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態観察や異変の早期発見は全職員ができています。バイタル・サーチュレーションの測定ができるよう指導している。 また緊急時対応については、AED設置やマニュアルを整備し周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー・非常階段・消火器を設置している。年2回昼・夜間を想定した避難・消火訓練を防火管理者と市消防職員指導の下行っている。 家族・地域の参加も呼び掛けている。	この地区自体が、消防の訓練回数が非常に多いとことで、地域全体の防災意識が高く、災害時には協力体制が取りやすい。年2回の避難訓練も市の消防署指導の下に行われており、ホーム内の避難経路等もわかりやすい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を忘れず、利用者の目線に遭った対応をしている。援助が必要なときも、まずは利用者の思いを大切に考え、また生活環境を変えないようプランの中に取り入れるケアを心掛けている。	一人ひとりの生活歴や性格を把握することで、生き方や考え方を尊重して対応するよう心掛けている。その人を理解することで、自然と大切な存在との思いがスタッフの中に出て来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の見線やスピードに合わせるのではなく、本人の思いを聞き出す努力をしながら、自己決定しやすい言葉かけをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは決めておらず、いつでも利用者のペースを大切に、一人一人に合わせた時間や内容にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床してから髭剃りを行ったり、毎月訪問理容による散髪、また利用者に合わせて理容・美容院へ行っていただくため職員同行の支援も行っている。色合いを考えた服や化粧品などを一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの献立を取り入れ、その日に食べたい物にも応じている。調理法を教わったり、調理・配膳・食器洗いの手伝う利用者もある。残存能力を活かす為、菜園を一緒に行っている。	ランチ外食やカレーの日、お弁当の日など、食事が楽しめるような取り組みをしている。外食時も、まず目で楽しみ、ミキサーを持参し、その場でミキサーにするなどの手間をかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事量をトータルし、利用者個々に必要な摂取量を確保するよう心掛けている。食事や水分が摂れない方にはその方に合った補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前に口腔ケアを心がけている。提携歯科医院の協力で特に口腔内の清潔保持を行わないと誤嚥性肺炎になるので正しい口腔ケアの技術を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員側の都合ではなく、個々の排泄リズムに沿った支援をするため、排泄チェック表での管理をしている。おしめの使用は極力避け自力での排泄を促しながら、便意・尿意のコントロールが出来るよう自立に向けた支援を行っている。	失敗があっても尿意、便意がある人には、出来るだけ布の下着で、失敗時気持ちが悪いと言う感覚を持ってもらうようにしている。安易にオシメやリハビリパンツへ頼らないようにし、排泄リズムに合わせてのトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や果物を食事につけ、水分摂取も大切にしている。また便秘によい食材をミキサーにかけジュースにしたり、オリゴ糖を食事に取り入れたり、体操や散歩など運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1階には準天然温泉風呂を整備しており、利用者の希望に応じて毎日のように入浴を楽しんでもらっている。利用者同士や職員が拒否者と一緒に入浴したりすることもある。	器械浴は設置しておらず、あくまでも自然な形で入浴してもらっている。入浴は入りたい時に、いつでも入れるように心がけている。入浴嫌いな人には、好きなアイスクリームを食後用意するなどの工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝したり、本人の意思に応じた支援をしている。睡眠が少ないときには、日中散歩をしたり、明るさや室温を調整し、時には付き添い話をするなど安眠対策をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方をもとに看護師が把握し、介護職員に伝達するようにしている。服薬忘れがないように管理体制を強化している。服薬後の様子観察も十分に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中のレクリエーションや外出を楽しみながら、好きな食べ物を買に行ったりしている。お酒を召し上がったたり、歌を歌ったりと張り合いや喜びのある支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望を家族へ伝え、家族との外出をお願いしている。事業所全体やユニット単位で買い物や外食（モーニング・ランチ・ディナー）・散歩・ドライブなどによく出かけている。年末に家族の協力を得て一泊旅行を実施する計画である。	日常的な散歩から、全員での外出、希望に応じた個別での外出など、多くの外出の機会を設けている。年末には一泊外出が企画されており、全員での外出が予定されている。体調不良になった場合等を考え、すぐ帰れる近くでの温泉ホテルの予定をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1度の移動パン販売や買い物で個人のお金で好きなものを購入している。またお小遣い帳と一緒に見て残金の確認をしたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したり、手紙も自由に書いてやり取りしている。また、本人自らでは困難な場合も、職員の手紙に同封して送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームにはソファや畳の間があり、自由に過ごせる空間にしている。写真や陶芸作品・事業所新聞も掲示している。ウッドデッキから見渡す和風庭園からは草木の変化から季節感がわかり、和みの時を過ごせるようにしている。	落ち着いたリビングにソファや畳コーナーが設けられており、家庭的な雰囲気である。リビングからはウッドデッキに出れるようになっており、ゆったりとした雰囲気がある。玄関には利用者の陶芸作品やお花が飾られており、暖か感じがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	石筍や向かい合う位置、テレビ好きな人への席の配置等工夫している。体調や気分の変化により居場所づくりができるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や職員も協力して、その人独自の居室を作っている。ベッドや家具・テレビなど昔から本人が使っている家財道具を入れたり、希望に応じて洋間を畳敷きにしている。洋服を掛けたり、写真や色紙を飾ったり、楽器やパソコンを持ち込んだりして個室生活を楽しくもらっている。	それぞれ、自宅から持ち込んだなじみの家具や、家族の写真等が飾られており、生活空間が出来ている。窓からは、庭や周りの田畑が見られ、大きな幹線道路がすぐある割には静かさが保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやリビングには字を大きくした張り紙を貼り、毎月リビングに大型カレンダーを職員と利用者で作成している。お風呂はのれんをつけ、居室には表札を掛けわかりやすくするよう工夫している。		